

心ひとつに

弥富市立桜小学校
学校だより
No.12
平成24年7月13日

思いやりの心が幸せを呼ぶ

桜小では984人の子どもたちが生活しています。そして、弥富市、愛知県、日本ではもっともっと多くの人々がいっしょに生活しています。みんなが気持ちよく自分の夢をもって生きていくために心がけなければいけないことは何でしょうか。

一番大切なことは、「思いやりの心で人に接する」ということだと思います。思いやりの心で接してもらったら、幸せな気持ちになりますね。
以前、ある新聞に載っていた詩を紹介しましょう。

全校朝礼の話より（7月9日）

「おもいやりの心」

思いやりのある子とは
まわりの人が悲しんでいれば、ともに悲しみ
喜んでいる人がいれば、その人のためにいっしょに喜べる人のことだ
思いやりのある子は
まわりの人を幸せにする。
まわりの人を幸せにする人は
まわりの人によって、もっともって幸せにされる
世界で一番幸せな人だ。

この詩は、病気のために亡くなった若いお医者さんが、愛する娘さんに最後の願いとして書き残したものだそうです。

子どもは、親にとってかけがえのない宝です。宝物の子どもには幸せになってもらいたいと願わない親はいません。幸せになるには、まず、あなたが「**思いやりの心**」をもつことです。

友だちをぶったり、けったりの乱暴をしていないだろうか。通学団で下級生を叩いてはいないだろうか。きたない言葉を友達に投げかけたり、いやがることをしたりしていないだろうか。意地悪をしていないだろうか、私の一言が相手を傷つけてはいないだろうか、とふりかえることが「**思いやりの心**」を育てていきます。

1学期もあとわずかです。自分をふりかえる1週間にしてみてください。そして、どの子も「**思いやりの心**」で幸せを呼んでほしいと思います。

あいさつは、人間関係の基本！

7月7日（土）、弥富市の青少年健全育成大会に参加しました。海翔高校の発表の後、後半部分では、通称「岡崎のやんちゃ和尚」で有名な、廣中 邦充氏の講演を聴きました。廣中 邦充氏は、浄土宗西居院第二十一代目住職、教育評論家でもあります。愛知県岡崎市出身で、1996年頃から10年以上にわたり自らが営む寺で、いじめや不登校、引きこもり、家庭不良等様々な問題を抱えた少年少女達を無償で預かり、2010年までに約770人もの少年少女達を更生させてきたことで注目を浴びています。

廣中和尚は、現在、癌と闘いながらも、舞台から駆け下り、明るく、パワフルに話してくださいました。「ぬくもりのある家庭の中で育った子というのは、夜遊びに出歩かない。いじめの問題にしても、僕は学校よりも家庭環境に問題があると思う。家族のコミュニケーションが足りなくなってきたことが、いじめという形で子どもたちに表れてきている。それは家族だけではなく、地域の人同士の間人間関係が減ってきているためでもある」

この講演でも、家庭環境の大切さ、あいさつをすることが人間関係の基本であることを教えてくださいました。

